



全国連合退職校長会

会報



巻頭言

各世代に思いを伝えよう

副会長(中国地区) 山田 忠男

昭和40年(一九六五年)6月、教育の振興と会員の福祉の充実を図るという目標を掲げ、全国連合退職校長会が設立された。そこで、来年の秋には設立五十周年の記念式典が行われる。今回、副会長として貴重な体験をさせて頂いたので、それを通して感じた事等を述べてみる。前任者から簡単に聞いていたが本部にどこから来られた方が何を担当しておられるか分からない。習性なのか、名前が不明な方と同席しているのは何か落ち着かない。そこで、たかが20数名なので一堂に会する機会に全体写真を撮らせて貰った。同じ思いの方が何人かはおられるだろうから後日事務局に連絡を取り、氏名・出身県等を入れて全ての方にお配りした。このことよって、次にお会いした時気軽に声をかける事ができた。

昨年の第2回理事会でのことである。全連退を他の人に理解して貰うねらいで、リーフレットに、そのイメージを四輪駆動の車の図で紹介した説明があった。これが非常に役にたった。全国連合退職校長会と都道府県退職校長会がそれぞれ車の両輪としてバランス良く役割を果たせば目的に向かい真つ直ぐに進むだろう。いろいろな場で利用させてもらっている。構造的に都道府県単位の退職校長会でも活用できると思う。

設立五十周年記念にいろいろな企画されているが、現時点で大きく期待しているのは、仮書名の「未来を拓く学校の力」である。

内容構成を見ても全国各地で活躍しておられる方々がかくも大勢おられる事を知ると国内旅行と違う楽しみが味わえる。26年度末までに発刊されるが今か

ら期待している。もう一つ忘れてならないのがホームページのリニューアルである。

全国の会員の立場にたつて構築されたことがよく伺える。例えばトップページから今、各自が必要としている事柄へ進めるように左右・上下に窓口が用意されている。今までに配布された会報・全連退情報・年間紀要また最新の新着情報もすぐさま得られる。

いささか巻頭言らしからぬ内容になったかと思いますが私の立場で出来るだけ客観的に全会員の方々に伝えたい事を述べさせて頂きました。ますますの全連退の発展を祈念いたします。

〔目次〕

- P 2…「要望書」の提出
- P 4…提言
- P 5…全国校園会長より(国公幼・全連小)
- P 6…地区連絡協議会の記録(九州・北海道)
- P 7…都道府県だより(埼玉・静岡・大阪なにわ会)
- P 8…全連退部員・委員等役割分担一覧
- P 9…副会長の報告
- P 12…全国校園会長との連絡会
- P 15…記念講演会記録
- P 20…五反田だより・編集後記

平成26年度の『要望書』を 文部科学・厚生労働・総務の各大臣に提出

平成26年8月5日 全連退 戸張敦雄会長は、副会長8名と本部役員7名を伴って、各省を訪問し「要望書」を提出した。



文部科学省大臣官房伯井美徳審議官を囲んで



文部科学省への要望書提出

〈副会長〉

北海道地区

森 剛 (北海道)

東北地区

鈴木 信光 (福島県)

関東甲信越地区

清水 章夫 (埼玉県)

近畿地区

松重 享蔵 (大阪府)

中国地区

山田 忠男 (島根県)

四国地区

横山 和雄 (高知県)

九州地区

城後 武史 (福岡県)

※東海北陸地区 江端雅司 副会長 (岐阜県) は、都合がつかず欠席された。

下村 博文 文部科学大臣への「要望書」

「教育尊重の気運を高め、教育の振興に寄与する」ことを目的として活動している全国連合退職校長会は、全国各都道府県退職校長会の会員約九万五千名の総意として、左記事項を要望いたします。

I 教育の振興に関する要望

- 一 東日本大震災及び原発事故からすでに四年目を迎えた現在、甚大な被害をこうむった地域及び学校や教育関係機関の復旧・復興を図るため、積極的かつ加速して支援するよう尽力されたい。
- 二 「教育重視」を掲げる国として、中央教育審議会が第二期教育振興基本計画で示した通り、公財政教育支出を他の先進国並みのGDP比5%以上を目指して一層尽力されたい。
- 三 義務教育は、国の責任において行うべきであり、義務教育費全額国庫負担の実現を目指し、まずは国庫負担金の割合を二分の一に還元するよう尽力されたい。
- 四 義務教育標準法改正による計画的な教員の定数改善を図り、少人数教育の充実に尽力されたい。
- 五 教育界に優秀な人材を得るための人材確保法を堅持するとともに、校長等管理職及び教職員の勤務の特殊性に見合うよう処遇改善に尽力されたい。
- 六 新たな道徳や英語教育・特別支援教育などへの対応を含め、実践的指導力を重視した教育育成や免許制度の改善を図るとともに、効果的な現職研修の在り方についても検討されたい。
- 七 教育尊重の気運を高めるために、本会が提唱・推進してきた「教育の日」が、すでに全国三十五都道府県、百六十五市町村に制定されたことに鑑み、国民の祝日として「教育の日」を制定されたい。
- 八 学校、家庭、地域が一体となった教育を推進するため、学

校支援地域本部活動や家庭教育支援活動等を一層充実し、社会全体の教育力の向上を図る施策を講じられたい。

II 退職校長・園長の叙勲並びに人材登用等に関する要望

一 長寿社会における生涯学習の充実を図るとともに、退職校長・園長がこれまでの経験や専門的知識・技能を活かして家庭・地域及び学校教育の支援に幅広く貢献できる施策を講じられたい。

二 春秋叙勲について、叙勲者数の増加と義務教育関係者の叙勲ランクの格上げに配慮されたい。

三 年金給付年齢の繰り上げに伴い、退職校長・園長の再任用・再雇用に係わる条例・制度を全国的に整備・拡充する施策を講じられたい。

四 文部科学省が設置する審議会、有識者会議や研究協力者会議等に、全国的な組織を代表する退職校長・園長を適時に登用・活用されたい。

● 文部科学省大臣官房審議官 伯井美德氏（初等中等教育局担当）に「要望書」を提出し、意見と全連退に寄せる期待についてお聞きした。

● 叙勲に関する要望については、内閣府章勲局へ要望して欲しい。退職校長の登用要望については、検討したい。

● 東日本大震災・原発事故、被害の復旧・復興に努力している。一層の支援をお願いしたい。

● 義務教育費国庫負担の問題については、財務省の壁が厚く難しい。文教関係への財源が乏しい状況にある。

● 人材確保法が衰退してきていることは承知している。メリハリのある処遇で、対応しているのが現状である。

● 加配による少人数教育への対応をしているが、義務教育標準法を改正し、定数確保に向けて努力するようにしたい。

● 道徳・英語などの教科化の方向については、中教審へ諮問しているのでその答申を受けて進める。

● 指導力向上研修の問題は「チーム学校」の考えに立つて地域との連携協力を考えて推進する。
● 「教育の日」を国民の休日という考えは、教育尊重の気運を高めるために大切であるので重視したい。
● 「要望書」の趣旨を重く受け止め努力する。政治の世界への働きかけをすること、文教関係の衆・参両議員さんへの要望・要請を、全連退として考えて頂けるとありがたい。

田村憲久 厚生労働大臣への「要望書」(前文 略)

一 高齢者医療制度の見直しに当たり、健康保険料・介護保険料等の負担が過重にならないよう、後期高齢者の生活安定に配慮されたい。

二 高齢者の医療費の増額を抑えるため、ジェネリック医薬品の種類を増やし、その利用促進をさらに進められたい。

三 長寿社会で働く高齢者の年金については、とくに六十歳代前半の在職高齢年金の支給停止基準を緩和するよう配慮されたい。

四 公的年金制度に関する啓発・周知を図る事業を実施されたい。

● 厚生労働省 保険局 佐金安浩氏 医政局 増川直樹氏。年金局 福島大悟氏。小野寺晋氏。片山紘介氏。5名の担当係官と面談し、要望事項について意見交換を行った。
● 医療費の増大傾向は確かである。国が5割負担、自治体が4割負担、本人負担1割に抑える方向で努力している。後期高齢者が安心して医療が受けられるように。努力します。
● ジェネリック医薬品については、60%を目標に推進しているが、56%



厚生労働省への要望書提出



総務省への要望書提出

● 総務省自治行政局 鶴見太郎氏。自治税務局 石川裕一氏2名の係官と面談し、要望事項についての見通しについてお聞きした。

- 一 共済年金と厚生年金との一元化に伴い、国が定めた既存の権利（職域加算）を保障するよう新制度を早急に定め、退職教職員の生活安定の堅持を強く要望する。
- 二 長寿社会で働く高齢者の年金については、勤労意欲を損なわれないよう在职老齢年金の支給停止基準を緩和するよう配慮されたい。
- 三 高齢者の生活安定を堅持するため、年金受給者への住民税等の税負担が過重にならないよう配慮されたい。

● 職域加算の保障については、通称新三階法が24年11月に成立し、27年10月より施行されること

● 長寿社会で働く高齢者の年金については、年金財政が厳しい状況であることを理解して頂く必要がある。

● 年金受給者の、所得割について一定の配慮をしている。

新藤義孝 総務大臣への「要望書」（前文略）

%まで来ている状況である。リーフレットを作成PRに努めているので理解してほしい。
● 60歳代前半の在职老齢年金の支給停止基準の緩和については、残された課題になっている。
● 公的年金制度に関する啓発・周知策については、努力中である。年金機構を通して相談会、後援会などを行っている。ポスターなどでPRに努めている。



子ども部屋論

副会長（四国）横山 和雄

人間にも一部の動物と同じく縄張り意識があるのではないでしょうか。国や時代により異なるでしょうが、近代化、文明化の進歩に比例して、個人の縄張り意識は強くなると思います。

現代の我が国の場合、幼稚園や小学校時代から個室を与えられ、物理的に自分の縄張りを持っているケースが多いようです。ただ幼いときからあまりにも強過ぎる縄張り意識を持たせると、親が子ども部屋に入っただけで鮎のようにフラストレーションを破裂させるような子どもになりはしないか、という心配を一度はしておくべきだと思います。『山椒魚』（井状鱒二）になってからは後の祭りです。京都市の建築会社の宇津崎光代

会長は、「住育」をテーマにして「子ども部屋はいらない」と訴えました。高知県出身の作家の山本一力氏も、あえて子ども部屋を作らず、宿題はリビングルームで行わせたそうです。

そういう風潮をうけてか、昨今リビングルームが重視されているようです。明治・大正時代のいりり端同然のリビングルームでは、家族がそれぞれ勝手に自分の「仕事」を同時に行いますが、他人に影響を与える音、光、振動等は各自が厳しく戒め合います。このように干渉し合いながらも各自が「仕事」に熱中している時、その刺激効果で子どもも勉強に身を入れだします。最も重要なことは、すぐそばに質問する相手が居ることです。兄や姉に聞き、父母に聴いて理解し、同時に「オヤジ」の偉さも知ります。ここには個室で培養される閉鎖性はなく、しかも人間関係で大切である相手への気配りや思いやりが自然に養成されるのです。

全国校園長会長より



今こそ質の高い
幼児教育を

全国国公立幼稚園長会

会長 岩城眞佐子

一 本会の活動目標
幼稚園教育の充実・発展を指して、全国各地の国公立幼稚園や認定こども園の園長で構成されており、昭和25年に結成以来60余年の歴史を積み重ねています。一人一人の幼児の心身ともに健やかな成長を願い、幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた幼児教育に全力を注いでいます。

二 現状と活動の実態
平成27年4月より「子ども・子育て支援新制度」が始まります。そのため、施設の形態が変わってくる園も増えることが予

想されます。

● 総会において規約改正案の承認がされました。来年度より本会の名称が「全国国公立幼稚園・こども園長会」となります。

● 国公幼の数としては少数派でありますが、様々な地域で小学校との連携も進んでおり、質の高い幼児期の学校教育を推進する組織として期待されています。

PTAとの連携や子育て支援を行い、幼児教育の重要性を発信していきたいと考えています。

教育の質の維持・向上に教員の研修は欠かせません。

● 宮城県での総会・研究大会、山口県での研究協議会をはじめ、各ブロックごとの研究協議会を開催し、すべての教員が自らの資質向上を目指して互いに学び合える研修会を実施しています。

三 全国連合退職校長会への要望
教育再生実行会議では、幼児期の教育の重要性が取り上げられていきます。校長会の立場からも国公立幼稚園の存在意義を発信していただきたくよろしくお願いたします。

希望
教育再生実行会議では、幼児期の教育の重要性が取り上げられていきます。校長会の立場からも国公立幼稚園の存在意義を発信していただきたくよろしくお願いたします。

教育改革への
積極的な提言



全国連合小学校長会

会長 堀竹 充

全国連合退職校長会の皆様におかれまして、日頃よりわが国の教育の振興を目指し、教育改革について積極的に提言を進めてこられましたことに敬意を表します。

さて、教育改革の中身を見てみると、依然、解決すべき問題が多くあります。大津市でのいじめ自殺事件を契機に国会において「いじめ問題対策基本法」が成立したことは、学校は児童・生徒にとって安全・安心な教育環境を提供するとともに、それぞれの可能性を伸ばす場であることを保障することを改めて認識する必要を示したと考えます。そうした視点で考えると、

現在に至っても一部自治体で基本方針の策定が遅れ、それに伴い学校基本方針が作成されていない事態は、学校への信頼を揺るがしかねない状況であると考えるます。

また、英語の教科化については、英語指導力の高い人材の確保、高学年における授業時間増に対する児童への負担の軽減など、議論すべき問題も多いと考えます。

さらに、教育再生実行会議の五次提言で示された、義務教育期間の五歳児までの延長、小中一貫教育学校の制度化、複数の学校種に対応した教科免許状の創設、大学と教育委員会が連携した養成・採用・育成を一体化したシステムの創設など、今後の日本の教育制度の根幹に関する課題の検討が中央教育審議会で開始されようとしています。

こうした時期にあたり、全国連合小学校長会では、審議の動向を適時・適切に会員に周知すると共に、昨年度にも増して、積極的に学校現場の声を発信してまいります。



九州地区

期日 5月8日・9日
会場 福岡リーセントホテル
出席者 33名

8日(木)の開会式と全体会
においては、入子全連退総務部長、福岡県教育委員会城戸教育長の挨拶のほか、多数の来賓の出席のもとに行われた。平成26年度の協議会長の選出が行われ、会則に従い城後武史福岡県退職中学校会長を選出した。

全体会では、「魅力ある退職校長会の在り方と活動について」の題のもと活発な協議が行われた。また、同時に各県からの全連退に対する要望事項についても協議を行い、米寿以上会員の会費免除等の軽減要望など、

全連退に対する直接要望については、出席の入子全連退総務部長より回答があった。

その他、国に対する全連退の働きかけに対しては、特に教育の定数改善や教育予算の増額等についての要望があった。

北海道地区

期日 5月16日
会場 ホテルライフォート札幌
出席者 128名

北海道地区は単一退職校長会のため、他地区のような「地区連絡協議会」は設けられていない。それに替わるものが全道40支部の代表者が集まる年度当初の「定期総会」と秋に開催される「支部代表者会」である。ここでは、5月16日に開催された第50回定期総会の概要について報告する。

来賓16名のご臨席のもと、国歌斉唱、会長挨拶、ご来賓を代表して2名の方の祝辞と全連退戸張敦雄会長より挨拶をいただいた。その後、議長に札幌厚別支部の日向徹雄支部長を選出して報告・協議に入った。
一 報告事項
●平成25年度活動・事業報告

- 平成25年度一般会計・特別積立会計決算報告、監査報告
●「北海道教育の日」道民運動推進協議会の活動

- 二 協議事項
●平成26年度活動方針(案) 事業計画(案)

- 平成26年度一般会計予算(案) 特別積立会計予算(案)
●創立50周年記念事業要領(案)
●支部及び会員からの提出議題
●総会宣言決議(案)

- 三 寿詞・賀詞の贈呈
四 感謝状の贈呈
報告及び協議事項についてはすべて承認された。全連退の賀詞は、受賞者69名の代表・笹川雄吉氏に、全連退戸張敦雄会長より贈呈していただいた。総会終了後、懇親会が和やかな雰囲気の中で行われた。

また、「支部代表者会」(10月14日予定)では、「支部活動の交流を通して、他支部の実践に学ぶ」をテーマに、情報交流を行うことになっている。



「継承と創造」の歩みを

埼玉県 会長 清水 章夫

埼玉県退職校長会は昭和40年3月結成。会員数3695名、10支部・57班の構成で、本年度結成五十周年を迎えた。

本年度の活動内容は、①結成五十周年記念事業②現職校長会との連携による教育研究会等の開催③県・市町村等への要望書の提出④専門部事業の展開、をメインに進めている。内容①②③の要点を紹介したい。

一 結成五十周年記念事業

次の3事業と取り組んでいる。
(1) 結成五十周年記念定期総会
定期総会は五地区巡回で、例年講演会・アトラクション・美術展、懇親会を同時開催。本年度は記念総会として、6月6日全連退戸張敦雄会長の御臨席を得て、永年勤続者表彰を含め「国立女性教育会館」で実施。

- (2) 記念誌・記念会員名簿の刊行
- 二 教育研究会の開催
- (1) 彩の国教育の日協賛 現職・退職校長教育研究協議会

11月中心で10支部12会場。小・中校長会、県教委との4者共催。昭和47年度より実施。

☆昨年度の例★各支部共通主題で現・退の実践事例の発表と協議等★参会者総計1041名。
(2) 現退職校長会役員研究協議会

☆昨年度の例★12月実施★出席者、小中現職26名・退職20名★現・退で切実な実践課題を協議題として提示し、発表・協議。

三 要望書等の提出

(1) 県教育振興に関する要望書
県知事・県議会議長・県教育長に9月提出。☆本年度案★退職校長の力量活かす活用を★教員定数改善や事務量軽減を★学力調査結果公表への配慮等を等。

(2) 市町村首長・教育長へ各支部・班の実態に即し要望書提出

(3) 全連退要請等へ適切に対応
◇結成五十周年を契機に、「継承と創造」の歩みを着実に進め、活動の活性化に努めたい。

親和の心を基に

静岡県退職校長親和会

会長 廣野 光美

静岡県退職校長会は、発足以来47年、20支部、3000名余の会員で組織しています。東西に長い県ですので、地域によって人柄が異なると昔から言われていますが、気候のように、穏やかで和やかに活動しています。会の理念を示す「親和会」の名前で知られています。

「フェスティバル」 毎年県全体で2地区が開催します。会員の実践や研究の発表、芸術作品の展示、懇親会などが主な内容になっています。開催地区と支部が親和会を見直す機会になっています。

静岡県退職校長会は、発足以来47年、20支部、3000名余の会員で組織しています。東西に長い県ですので、地域によって人柄が異なると昔から言われていますが、気候のように、穏やかで和やかに活動しています。会の理念を示す「親和会」の名前で知られています。

年間に理事会2回、総会と事務局長会を各1回開いています。年に3回発行する会報が、本部と支部・会員を結んでいます。会の目的は「親和、研修、福祉の増進、教育への貢献」の4項目です。具体的な主な事業は「フェスティバル」と「親和会たより」で、会歌に「生き方交わすフェスティバル みんなのたより明日の糧……」という一節があります。

「親和会たより」 この冊子は発足当初から発行され継承されているもので、特色のある事業と自負しています。全会員に呼びかけ200字の短信を求めています。趣味、人生観、健康法など、会員の自立しようとする意気込みがうかがえ参考になります。

支部独自の活動 教育支援や交流の活動は、各支部が、それぞれ工夫していますが、新しい動きが出ています。学校や教員への直接的な支援より、地域で子どもたちの活動を助け見守る活動が多くなっています。また高齢の会員に対する心づかいや具体的な支援が工夫されています。県と支部は車の両輪と考えて来ましたが、さらに連携を深め全輪駆動で発展を図ります。

教育現場の

サポーターとして

教育なにわ会

会長 森田 二三

本会は、大阪府内の小・中・特別支援（小中学部）学校の退職校長を会員に組織され、昨年創設50周年の節目を迎えた。本会の通常活動は、本部活動として組織・事業・会報・名簿の4委員会を中心に活動推進に努めるとともに、地区活動として府内8ブロックの単位組織で地区の特性を生かした活動を展開している。しかし、現在の大阪は様々な改革の渦中であって先行きが見通し難い実情であり、そこに若年層会員の組織離れや意識変化が顕著になりつつあるなど、本会組織の拡充や財政事情においても由々しき状況になってきている。

〈教育現場の直面している課題として〉

府の財政立て直しの一環として管理職の給与待遇の大幅削減

や、各種条例による活動の縛り等から管理職志向の低下傾向がみられ、特に教頭人事に顕著である。また、学校運営に民間のマネジメントの導入をとの首長の意向を受け、条例が制定され、学校長は原則公募制となり、平成25年度から民間校長が導入された。こうした動きの中で、教育職の間に将来展望に対する閉塞感が漂い、校長会の組織や活動形態にも新たな動きが心配されるなど大変気になるところである。

〈教育現場をサポートするため〉

かかる状況を教育OBとしても真摯に受けとめ、現職校長会との交流を通して課題の共有化に努めるとともに、教育現場の志気を鼓舞するために一体感をもってサポートすることを明確にする。そして、退職当時に関わりのあったPTAや地域の会合等で、教育現場の取り組みへの理解を働きかけられるべく会員の相互理解を図っていききたい。

平成26年度 常任理事、部員、委員等役割分担一覧

(順不同、敬称略)

会長 戸張 敦 雄
副会長 片岡 敦 子 (東京) 副会長 清水 章 夫 (埼玉)

◎常任理事

部、委員会	部長・委員長	部 員 ・ 委 員
総務部	◎入子 祐三	◎野口 玲子 ◎大野 幸男 ◎木山 高美 ◎白石 裕一
教育振興部	◎大野 幸男	◎高橋 基 (長野) 萩原 武雄 河原 敏子 滝澤 利夫 巖 正子 柳瀬 修
生涯福祉部	◎岡野 仁司	◎大泊 信雄 (茨城) ◎板垣 正順 (千葉) 荒井 忠夫 鴻田 好道 緑川 曜子
広報部	◎村山 忠幸	有田 禮二 岩井 昭 岡村 幸夫 永井 洋子
会計部	◎白石 裕一	◎山岸 宏 (新潟) 大串 國廣
教育課題答申委員	◎田中 昭光	◎渡部 博正 (神奈川) 梅村 勝 清水 廣泰 堀内 比佐子
出版事業委員	◎木山 高美	◎石塚 二郎 (栃木) 齋藤 とも子 鈴木 博子 西倉 正

事務局	事務局長：徳永 裕人 次長：中原 慎三 佐々木 多美子
-----	-----------------------------

副会長会の報告

期日 平成26年8月4日(月)
会場 全国連合退職校長会

事務局 会議室

出席者

北海道 戸張 敦雄 会長

東北 森 剛副会長

東 北 鈴木 信光副会長

関東甲信越 清水 章夫副会長

東 京 片岡 敦子副会長

東海北陸 江端 雅司副会長

(欠席)

近 畿 松重 享蔵副会長

中 国 山田 忠男副会長

四 国 横山 和雄副会長

九 州 城後 武史副会長

他に各部長・各委員長・事務局長及び事務局職員、計20名が出席。

◆会議の概要

司会 総務部長 入子 祐三

一、開会のことば

副会長 鈴木 信光

二、戸張会長挨拶(要旨)

台風12号の影響で、九州地区あるいは四国地区は大雨で、会員の方々、ご無事にお過ごしのことと思いますが、お見舞い申し上げます。また、近畿地区も大雨、北海道地区は前線の影響で雨。関東甲信越地区は、連日34度〜35度という気温で真夏日が続いております。

互の連携を図っていく。以上のことについて、よろしく願う次第です。

三、報告

1 理事会・総会の反省、常任理事会の報告
総務部長 入子 祐三

2 各部・各委員会の事業の進捗状況

総務部

- 理事会・総会の準備・運営。
- 中央省庁への要望書提出。
- 文部科学省初等中等教育局長との懇談会の企画。
- 現職幼・小・中・高・特別支援校園長との連絡懇談会。

教育振興部

- 「家庭教育の指針」の作成。
- 「学制改革」について各県会長にアンケート調査依頼中。

生涯福祉部

- 公的年金に関する意識調査及

広報部

- 6月30日号を予定通り発行。
- 9月30日号発行の準備。
- 設立50周年記念事業の「記念誌」発行の編集企画。
- ホームページ更新を着実に。

会計部

- 会費納入が順調。
- 来年度、設立50周年記念事業の実施に伴い、各委員会等の予算要望等を踏まえながら、最終的な支出決定案を検討中。

教育課題答申委員会

- 会長からの諮問である「教職員員の処遇の経過の現状」(人権法の堅持に関する見解)について各都道府県から寄せられた意見、委員会としての意見を集約し、諮問に答える予定である。

出版事業委員会

- 第6回の出版を設立50周年記念事業の一環として出版する。執筆者からの原稿を検討し、7月中旬に出版社へ入稿。
- 仮書名「未来を拓く学校の方——地域と学校の心のふれ合う教育活動——（出版は、27年1月の予定）

3 各省庁への要望書

- 内容の詳細は、本紙P2～3参照

四、各地区の現状と課題

- ① 北海道地区 会長 森 剛
 - 会員数は多かった時は6000名近くであったが、現在は5000名。減少傾向である。昨年度の新入会員は約66%、本年度は52%。退職と同時に公的年金が支給されないこともあって、退職者の意識が変わってきていると考えられる。新入会員が減ると同時に、逝去される方、退会される方が

200名ぐらい。新会員として入

会する数よりも減っていく数が多い状況が、ここ数年続いており、会員数が来年度は5000名を切るのではと心配している。

- 会員数の確保に努力していきたい。（新会員の加入促進・現会員の退会抑制）

● 教育支援活動を支部の組織全体で取り組むように推進していきたい。

② 東北地区 会長 鈴木信光

● 特に被害の大きかった岩手・宮城・福島の3県では、復興は、先が見えない状況にある。

今年も被災会員の全連退会費の免除措置や新規採用教員の研修資料（東京都退職校長会の寄贈）をはじめ、複数の退職校長会から温かい支援金を寄せて頂き、全連退会員としての繋がりがありがたさを実感している。

● 大震災及び原発事故による課題への対応として、①全連退

会費免除措置を年度毎に要望

する。②会費免除に伴う収入減に対応するため、事業の見直し削減を図り、規模を圧縮した予算の中で適切な運営に努める。③会員の自助・共助

の精神に立った「ワンコイン・サポート事業」による支援基金を立ち上げ、当面5年間の見通しで支援活動を進めている。④新たに「ぬくもり基金」を立ち上げる。

③ 関東甲信越地区 会長 清水章夫

● 昨年度の関プロでは、財政状況の健全化の問題を取り上げた。①新入会員の促進と会員減少傾向の対策。これは深刻な問題として受け止めている。昨年の新入会員の加入率は、1都9県で90%以上が4県、80%以上が2県。埼玉は昨年は90%であったが、今年は82%に低下した。その原因は年金問題が関わっていると考えられ、対策を十分に練

っておく必要がある。更に途中退会の傾向がかなり見られるので、検討を要する。②経費の節約については、旅費の節約が肝要である。

- 共通の問題点としては、①会役員への女性会員の登用。②会員の高齢化と処遇。③魅力ある会とするための努力についての検討。

④ 東京地区 会長 片岡敦子

● 会員数は3696名。支部数は43（23区・26市のほか、埼玉・神奈川・千葉支部）会員の28%は県民で、都民ではないという構成。その他、山梨・静岡・茨城の近県に通勤圏が拡大しており、地方会員として44名。

● 特色ある活動 都教育庁から二つの事業を委託されている。①教育庁人材バンク事業運営に伴う相談・普及広報等業務。都全体で3500名程がボランティア登録をされている（社会人・学生・教員）。その

人達のボランティアのための講座を開き、退職校長会はその講師等を引き受けている。

②昨年度から委託されている事業で、4月に教員になる採用前の研修を延べ10日間実施。会員の1500名が講師として指導している。

●課題 ①会員の高齢化。100歳以上が30名程、80歳代が一番多く、70歳代が少なく、60歳代が増えている。②会員の減少。多いときは6000名で、この10年間で1000名減。危機感を持って支部活動の活発化に努力している。入会率はここ2～3年増加しているが高齢者が多く、入会者と逝去者の増減でいくと、逝去者が多くなるので、必然的に会員数は減少。

⑤近畿地区 会長 松重享蔵

●大阪では、存命の退職校長は900名、会費納入は1000名が精一杯。存命の退職校長の分は名簿を作り、賛助会員

として名簿代は納めるが、会員は拒む。「メリットがない」がその理由のようである。大阪は、教育なにわ会（府内小・中）・みおつくし会（大阪市）・春秋会（府立学校）の3つの会があり、なにわ会・みおつくし会は、いろいろなブロックを作り、通信し合っている。春秋会は春は行事を行わず、秋に年寄り受けする行事を実施。今年度は「落語」を計画している。

⑥中国地区 会長 山田忠男

●5県がそれぞれ活動しているが、地区全体としてのまとまりを欠く。全国的な動きをペーパー情報として頂戴し、その活用については5県に任せているので、更に有機的にその情報が生きるようにしたいと考えている。

●地区の代表は2年間で交代することになっている。来年は山口県に移る。全連退の情報はペーパーで伝わるが、伝え

る担当者（地区代表）は、今のやり方を見直し、改善する必要があると感じている。

●地区情報を作ろうと思っても軌道に乗らない。来年度から山口県の会長が中国地区のまとめ役をされるので、側面的にフォローしながら今のやり方を支援していきたい。

⑦四国地区 会長 横山和雄

●各県とも春・秋の年2回の総会を開催しており、長寿・叙勲受章の慶祝を中心に情報交換を行っている。特に会員減少の要因が年金受給に関係していると考えられるので、退職そして年金受給の間のつなぎを如何に課題にしていくのかが、大きな課題のようである。

●「教育の日」の行事については、制定して日が浅い県は、新聞紙面2面を使ってPRするなど、エネルギーシユに取り組んでいる。

●情報誌を1月に発行する予定。

⑧九州地区 会長 城後武史

●26年度の九州地区協議会を、5月8日・9日、福岡市で開催。協議会の冒頭、昨年度大分大会で採択された「綱領」を全員で唱和し、「九退協綱領の具現化を目指す組織の充実と活動について」等の協議を行った。

●協議のなかで大きな課題になったことは、各県とも退職者のうち退職校長会に加入しない者が出てきた。全員加入を目指すための魅力ある退職校長会づくりを如何にするかが共通の課題になった。

●地区の会長が1年で交代しているが、全連退の1期2年に合わせる事が望ましいとの意見がある。検討したい。

●「九州は一つ」を合言葉に、友情と信頼の絆を一層深める努力をしていきたい。

五、閉会のことば

副会長 山田忠男

全国校園長会との連絡会

日時 6月25日(水)

17時～19時

会場 全連退事務局

出席者(敬称略)

◎全国公立幼稚園長会

会長 岩城眞佐子

◎全国連合小学校長会

会長 堀竹 充

◎全日本中学校長会

会長 松岡 敬明

◎全国高等学校長協会

事務局長 小栗 洋

◎全国特別支援学校長会

全国大会のため欠席

◎全連退

会長・各部長・委員長・事務局長

◎戸張会長挨拶

全連退は、「校園長会を支援する団体である」という使命を持っています。

今日は、全国の会長さん・事務局長さんから情報をいただき、



文科省等への要望書にも盛り込んでいきたいと思っています。

◎岩城(国公幼会長) 今、「子ども・子育て新制度」に向けて、

内閣府主導で会議が行われています。消費税を導入した段階で、

社会保障の一環として、子ども・子育てにも7000億円の

費用を当てようとしています。それは、保育の充実、待機児童

解消のための保育の量的拡大と、少しでも質の良い教育内容を実

施するためです。

この制度を施行するのは来年

の4月からと決まりました。幼稚園と保育園を一体化して幼保連携

型認定子ども園のような、両方の機能を兼ね備えた施設を作る

ところもありますし、現存する幼稚園や保育園をそのまま質を

拡大していくところもあります。今回の総会で、名称を「全国

国公立幼稚園・子ども園長会」と改称しました。また、組織を

しっかり保つことで、国に対して意見が述べられることになる

ので、これからも組織をしっかりと守っていくことを決意しまし

た。そして、研修大会の成果を全国に発信していきます。

要望ですが、幼児教育の質の確保ということ、適正な人員

配置を一番にあげました。公立幼稚園は2年保育が多いのです

が、3年保育にして、3年間で小学校に繋げるようにすること

も要望していきます。

◎堀竹(全連小会長) 要望の

一つ目は、教員の定数改善による学校教育の充実です。基礎定

数を目を向けて定数改善を図っていない限り無理だろうとい

うことで、今年度から「義務教育標準法の改正」による教員の

基礎定数を抜本的に見直すこと

で進めていくことにしました。それから、OECD諸国並みに

公財政支出のGDP比5%を要望します。現政権は教育重視を

あげているので、予算全体の中に占める割合を明確な数字で出

していくことが大事だと考えます。また、教育の質を高めるとい

うことで、理科の専科、英語は専科化を求めています。今、

小学校で英語の活動を行っています。ですが、ALTに頼って、教員

は全般的な指導力が上がっていないのです。英語が教科化されるのであれば、これを専科に切

り替えていくことを要望していきまします。

を集めるには重要だと考え、これも要望していきまします。

という経緯があります。中学校としては、必修教科を重視したいということで、現行指導要領を見ても、実質的に選択教科はなくなりました。また、部活動の位置付けですが、これまでは学習指導要領のどこにも出てこなかったのです。しかし、現実的には中学校においては大きな活動ですし、部活動を通じて子供たちの人間性の育成などさまざまな効果があります。ぜひこれを考えてほしいと言って来ました。現行の総則の中で「教育課程との関連を図って行う」と示されました。そのこと

によって部活動が明確に中学校における学校教育の一部であると明言されました。

予算要望については、義務標準法の一部改正による教職員定数の改善を要望していきまします。基礎定数を変えないと定数改善にはならないので、強く推し進めていききたいと考えています。

英語の教科化については、今から教員養成をしても、学習指導要領の改訂には間に合わないだろう。それであれば、質の高いA・L・Tの配置を、法に基づいた形で国の責任において進めていくほうが、グローバル人材の育成にとって有効だろうと考え、要望していきまします。

東日本大震災の環境整備の中で、子どもが安心して学校教育を受けられる環境をつくっていくために、スクールソーシャルワーカーの配置を考えていく。それから、被災地域の就学援助がどの県も申請数かなり増えてきている状況で、これに対する公的補助も改めて要望していきまします。

◎松岡（全日中会長） 当面する課題の一つが、学習指導要領に基づく創意工夫を生かした特色ある教育活動の編成・実施についてです。全日中としては、平成21年度に策定した教育ビジョンを、3年後の平成24年度に、現状により即したものと見直しを行いました。その提言の1に、「確かな学力の伸長」を掲げていますが、この5年間を見ますと、昨年末のOECDのPIISAの調査結果の発表によると、いずれの分野においても過去の調査結果を上回ったのです。このあたりは中学校教育が功を奏してきたという手応えを感じています。

重んじています。義務標準法の一部改正による教職員定数の改善を要望していきまします。基礎定数を変えないと定数改善にはならないので、強く推し進めていききたいと考えています。

校舎・体育館の耐震構造化の促進と老朽化への対応ですが、校舎の耐震化は全国で90%以上達成されていますが、体育館はまだかなり厳しい状況です。体育館は、大災害時には避難施設としても使っていきますので、体育館を含めて耐震工事への対応を要望していきまします。

国の教育改革への対応ですが、現行学習指導要領が改訂された時期に、全日中はいろいろな意見表明をし、それが反映された

予算要望については、義務標準法の一部改正による教職員定数の改善を要望していきまします。基礎定数を変えないと定数改善にはならないので、強く推し進めていききたいと考えています。

校舎・体育館の耐震構造化の促進と老朽化への対応ですが、校舎の耐震化は全国で90%以上達成されていますが、体育館はまだかなり厳しい状況です。体育館は、大災害時には避難施設としても使っていきますので、体育館を含めて耐震工事への対応を要望していきまします。

◎小栗（全高長事務局長） 最近の高校教育を巡る動きとして、教育再生実行会議の第5次提言として、7月末に学制の改革についての提言が行われる予定です。小中に関しては、5・4とか4・3・2が話題になっていますが、高校に関してはほとんど話題に上がってきません。また、昨年11月に教育再生実行会議から中教審に「高等学校教育と大学教育との接続・大学入学者選抜の在り方について」という提言がされました。これを受

けて、中教審の高等学校教育部会が、6月13日に審議のまとめを出しました。まとめでは、高校の生徒が非常に多様化していることと、基礎学力不足と学習意欲低下という問題が指摘されています。それで、高校教育としての共通性を確保するとともに、多様な学習ニーズへのきめ細かな対応が必要だとしています。つまり、共通性を確保して、高校教育の質の確保・向上に努めるようにということです。質の確保・向上は、それぞれの学校のレベルでできますから、それぞれの学校で努力しなさいということなのです。

そのまとめの中で、あくまでもペーパーテストで測れる、教科を中心とした学力を測定するものとして出てきたのが「達成度テスト基礎レベル（仮称）」です。この試験の目的は、「生徒が自らの学習到達度を把握し、

自らの学力を証明できるようにする」ことです。そして、「各高校が、自校の教育の向上につながる」のです。活用方策は、「結果を高校の指導改善に生かす」です。それに、「AO・推薦入試や就職時の基礎学力の証明として結果を大学等が用いることも可能とする」とあります。対象者は希望参加とあります。

このテストは2年生から実施するといっているのです。生徒の気持ちでは、2年生の1回目のテストが大学入試試験になってしまう。それでは2年生の授業ががたがたになり、文化祭等々まさしく生きる力をつけるための学校行事や部活動が衰退してしまう危険性を持っているテストなのです。

○大野幸男教育振興部長 5歳児から小学校への繰り入れについて、どうお考えですか

◎岩城（国公幼） 5歳児の思考

とか遊びを見てみると、抽象的な思考回路に大きな個人差があり、義務化は難しいと思います。

○大野 小中一貫校が動き始めました。そのことを、どう捉えていますか。

◎堀竹（全連小） 全連小ではスタンスを決めかねています。要は、小中一貫のカリキュラムがどれだけしっかりとしたものとしてできるかだと思います。

○松岡（全日中） あくまでも私見ですが、学習指導という点では非常に効果的だと思います。しかし、人間関係では、中学生になったからここで切り替えるのだという生徒はかなりいるのです。その生徒たちにとって、そういう機会を奪われてしまう危険性はないかと危惧します。

○木山高美出版事業委員長 達成度テストが実施されれば、今の統一テスト（センター入試）はなくなるのですか。

◎小栗（全高長事務局長） 達成度テストには、基礎レベルと

発展レベルがあるのです。基礎レベルは、実力テストのようなものです。小中学校で実施している全国学力テストのようなものです。大学入試センター試験に替えるというのが発展レベルテストです。高校側が心配していることは、複数回実施するという点です。そうなると、1月に行われているものが、12月に前倒しになる可能性があるのです。今でさえ1月にセンター試験があるため、12月末には教科書を終わらせているわけです。12月に行われたならば11月末で終わらせなくてはならない。こういう問題が新たに出てきます。

○木山 興味ある話題と貴重なご意見を提供いただきました。

これを参考にして、明日からの活力にさせていただきます。ありがとうございます。

全連退総会記念講演

「我が国の学校改善の
課題と実践的方策」

東京学芸大学名誉教授

児島邦宏先生

私は、20代の頃から学校を訪問しながら、教育のこと、学校のことを考える仕事をしてきました。今まで、570校ほど訪問してきました。その中で、最近気になることを申し上げます。一つは、最近の子供のことが気になることです。もう一つは、授業改善のことです。

最初に申し上げたいのは、子供の生活や体験の変化によって、学校教育の土台が崩れつつある



ことです。授業の改善だけでは、子供の力をつけるところにたどり着かないという現象が最近目につきます。文科省が毎年全国学力調査を行っていますが、それと一緒に学習状況調査を行っています。これらの調査結果から、生活の問題と学力との相関関係が高いことが数字として見えてきました。その中で、学習習慣の形成が大きな問題になっています。

学力と朝食

朝食を毎日食べる子供は学力が高いということで、文科省では「早寝早起き朝ごはん」というキャンペーンを行っています。我々が育った頃は当たり前のことだったので。今は食べていない子供が非常に多い。早く寝て、早く起きて、しっかり食べて学校へ行くという単純なことが崩れてきてしまっています。関東近辺ですと、小学生は9時に寝た子供と9時過ぎに寝た子供には学力に差があります。

島根県の雲南市には4年生以

学力と生活習慣

次に、事前に持ち物を確認する子供ほど学力が高いのです。学校から帰ってきて、明日の持ち物を確認して、それから遊ぶとか何かをするということが大事なのです。それから興味深いのは、親と子で学校生活での出来事について話をするかしないかで、大きな違いがあります。

親が、自分の子供に対する関心が強いのかそうでないかで、かなり違いが出てくるのです。

雲南市の調査で、地域の人のかわりで、「先生とか家族以外の人で、よく話をする地域の人を何人ぐらい思い浮かべることができるか」という質問で、5人以上思い浮かべることができる子供と、全然思い浮かべない子供との間には、学力にかなりの差が出てきました。これは、学校の中でも言えることですが、グループ学習を好み、話をしながら活動することが好きな子供は学力が高い。つまり、人のかかわりの豊かな子供ほど学力

上の小中学生2000人くらいの生徒がいます。そこでやっている島根県下の学力調査の平均点と、「朝ごはんは何を食べたか」ということとの間に相関関係がわかってきたのです。主食、主菜、副菜を食べて、乳製品を取っている子供の1科目の平均点は76・6でした。それに対して朝食を食べていない子供の平均点は61・7でした。その間に15点ほどの差が出てきました。主食だけを食べた子供は、食べなかった子供とあまり差がない。ただ、パンにバターを塗って食べると70・4になる。学力の高い子供には、主食と乳製品を食べるということが共通しているのです。バター、チーズ、ヨーグルト等の乳製品が子供たちに大きな影響を与えているという見方ができます。しっかり寝て、早く起きて、お腹が空いてしっかりご飯を食べてから学校へ行くという生活の仕方が、子供にとって学校の授業を生き生きと受けられるし、授業をしっかり吸収できるということです。

が高いということが数字的にも出てきたのです。

体験の重視

子供の生活の在り方を見直してみましょう。その中でとくに問題になってきているのは体験の問題です。今回の学習指導要領でも改訂の主要な項目の一つが体験重視です。体験の問題が指導要領に登場してくるのは昭和52年の改定の時からです。以来ずっと言われ続け、今回もまた体験重視が出てきています。なぜ体験がそれほど重視されなければならぬ問題なのか。現実の世界や生活の世界に身体全体を使って実際にかがわっていくことを体験といっています。

こうした体験によって外界の事物や事象を学び取っていく学習方法を体験学習あるいは体験活動といいます。身体で学ぶとはどういうことかというところ、見る、聞く、味わう、臭いをかぐ、触れるなど、身につけている感覚器官を通して学ぶことです。ルーソーは触れるということを非常

に大事にした人です。「聞いたものは忘れる、見たものは覚える、触れたものは身につく」といいました。

体験の中でも直接体験が問題になっていきます。情報化が進む現代で間接体験は今の子供たちは大変豊かなのです。しかし、直接体験が失われています。じかに自分の身体で対象にかかわることが少なくなってきました。間接体験、疑似体験は意味がないとは言いません。ただ、直接体験が失われたために授業がやりにくくなったということが起きています。解決は難しいことです。

体験の喪失

体験の喪失が問題になったのは昭和40年代からです。昭和42年が一つの転換点といわれていますが、その頃が少子化の始まりです。子供部屋ができるようになり、自分の部屋で一日中生活できる条件が整ってきました。それから、友達が少なくなり、友達への身代わりをしてくれる一

人遊び用のおもちゃが登場します。この代表的なものは、リカちゃん人形です。日本人とフランス人のハーフをイメージした人形として、今でも売られています。男の子にはマジンガーゼット（鋼鉄製の組み立ておもちゃ）が登場しました。怪獣ものなど、みんな一人用おもちゃです。

それから、遊び場の問題もあります。家の周りにいろいろと建物が増えて、遊び場がなくなっていく問題も、高度経済成長の中での生活の変化です。いろいろな生活の変化によって、家の外で仲間と遊ぶ形態が、家の中で一人で遊ぶという形態に変化します。1970年前後にこのような生活の変化が生じました。

チョウチヨを見たことがない子はどのようにチョウチヨを学ぶ取ることができているかが、教育の問題として登場したのです。子供の認識の問題です。子供は、実物を見たことがないですから、教科書の絵や写真を見て、羽は

4枚、足は6本と暗記するので、与えられた知識なり情報を丸暗記するのです。それ以外の手立てを失ったのです。

最近の大学生はどうなのかと、思っ、大学1年生の最初の授業で、答案用紙を配って、「トロボの絵を描きなさい。ただし、下から見たところを書きなさい」という問題を出しましたが、書けませんでした。自分で見たことも触ったこともないものから、瞬間的に覚えていたので、身に着かないのです。これが実態なのだと思います。瞬間的に物事を覚えたり、与えられた知識をただ暗記するという学習なのです。これは、教師の教え方がどうだからというよりも、チョウチヨやトロボを見たことがない子供は、与えられた知識を丸呑みにする以外学ぶ手立てがないのです。このような体験の変化が出てきています。

学校での学習の問題、運動能力の問題、心の問題の土台は、実は体験が用意していたのですが、そこが抜けてしまったもの

ですから、覚えようという形の学習になっていきます。本物を知りませんので、学ぶことが抽象的です。具体性、リアリティーがないのです。機械的にただ暗記してしまうので、時間とともにみんな忘れてしまうのです。このフォローをどうするかが体験の問題なのです。

ペスタロッチが大切にしたことですが、「学ぶ」ということは、知識などを身につけて、これによって自分たちの生活、社会生活のあり方や自分自身をより高め向上させようとするということです。これを「実践」といったのです。実際の社会生活の中でそれを生かしていくということ。その点で、社会生活上のさまざまなところで身につけなければならぬものを子供の中心にどう育てていくかをもう一度考え直してみる必要があります。

基礎基本と総合学習

次に、授業を巡っていくつかの点を申し上げます。子供に力を付けていくという点では、授

業の改善の問題をどう高めていくかが重要です。この点からみて、一つ気がかりな点を申し上げます。現行の学習指導要領を学力という点を土台に置きながら描くと、習得から活用へ、活用から探究へという形で、学習活動の型として提示しているわけですが、基礎基本が大事なのか、総合が大事か。思考力が大事か、読み書き計算が大事か。どちらが大事なのかという学力観の考え方がありました。そのような考え方で学力を捉えるのでは、子供は一人前に育ちません。あえて言えば、いずれもが大事ということですが、読み書き計算もできないで総合的な学習は成り立ちません。多くの資料を集めて読んだり、インタビューして人に話を聞く能力がなければ、総合学習はできないのです。総合学習を見ると、基礎基本がどれだけきっちり育てられているかはつきりします。

ある小学校の4年生が、地域を調べて、大きな模造紙に発表の身をまとめていたのです。

その中に、誰が見てもすぐ気がつくような大きな字の間違いが3つありました。先生はどうするのかと見ていたのですが、全然指導の手が入らないのです。総合学習は子供主体の学習ですから、先生は口出ししてはいけなれないと思ひ込み、指導の手が入らないのです。いつまでたってもそのままです。つい参観者の私が口をすべらせて、「大丈夫、この字」と聞くと、子供は「ええ」というのです。間違っていることがわかっていけば直すのですが、わからないからそのままになっているわけです。先生は、「もう1回調べてごらん」といえばいいのです。子供主体の学習ですから子供に調べさせればいいのです。

今回の学習指導要領では、習得から活用へ、活用から探究へと図式的に積み上げていくという学力のあり方を示したわけですが、どちらが大事という考え方は終わりにしようということが出てきたのです。最近の「PISA」の調査結果からも、総合学習が

大きく力をつけていると評価されてきています。その中でいくつか気になる点があります。一つは、基礎的基本的な知識の習得にかかわる学習場面で、教え込みが最近非常に多くなっているのではないのでしょうか。知識の習得に必要なものは、しっかりと物事を考え、理解するということですが、思考力・判断力は習得には必要ないという捉え方は大変な誤りです。

小学校1年生の算数の授業でした。入学して間もない頃です。足し算の授業でした。先生が「ここに車が1台とまりました。この車にチョウチョが3匹来てとまりました。あわせていくつでしょう」というと、子供は手を上げて「4つです」と答えます。先生はそうです、といって、どんどん進んでいくのです。ちよつと待った、何で車とチョウチョが足せるのだ、と言いたいのです。足す、加えるということはどういう意味を持っているのか。こんな難しいことを1年生でやっているのです。この

ことを理解しないと、足し算ができるようになったとはいわな
いのです。引くこととは何か、
足し算と掛け算の関係など、子
供たちは難しいことを勉強して
いるのです。なぜ、どうして、
これはどういう意味なのか、
しっかり考え、理解して身につ
けていかないと、学んだことに
はならないのです。

よい授業への提言

(1) 一人ひとりの子供を理解する
それから、一人ひとりの子供
の学力を高めていくためには、
一人ひとりの子供を理解するこ
とです。最近の若い先生は、子
供の心を読み取る力が落ちてい
る気がします。子供の姿を見る
事実を捉える観察の段階がまず
あります。次が解釈の段階です。
そして、これはこのまま放つて
おいていいのか、何とかしなけ
ればならない段階なのか、判断
診断を下す。何とかしなければ
いけないとなると、どのような
手を打てばこの問題は解決する
のかという手立てを考える。こ

のようなことをサイクルにしな
がら、一人ひとりの子供を考え
ていくのです。

授業中もそうです。手が上が
らないときに、なぜ手が上がら
ないのか考えなければいけませ
ん。「なぜこの子はこうなのだ
ろう」と心を読む力が抜け落ち
ている先生が多いのです。中学
校の数学の授業で、授業中窓の
外ばかり見ている生徒がいます。
その子を先生はどう指導するの
か。多くの先生は「おいお前、
どこを見ているのだ。体育の授
業がそんなに面白いのか。出て行
け」というのです。ただ、出て
行く生徒はいません。じつと我
慢しています。「あの子はいつ
も窓の外を見ている」と観察し
ます。次に「けしからん」と判
断、診断を下している。手立て
は「出て行け」と言っているの
です。「あの子はどうして私の
授業中に外ばかり見ているのだ
ろう」これは解釈なのです。こ
のことを飛ばしているのです。
理由は簡単なのです。先生の授
業はわからないといっているの

です。体育の授業は楽しそうだ、
あのような授業をしてほしいと
身体で訴えているのです。子供
が先生に言いたいことと、先生
が子供に言いたいことが全くず
れてしまっていて、ここには学
びが成立しないのです。子供に
対する問いかけが指導の出発点
なのですが、最近の若い先生に
はそれがありません。子供に対
する接し方がわからなかったら
先輩の先生に聞けばいいのです。
先輩は、いろいろな子供を扱っ
てきていますから、適切なアド
バイスをしてくれるはずです。
そういう教師同士の指導の関
係が大事です。子供と向き合う関
係、仲間と向き合う関係がなく
て、パソコンと向き合っている
のです。職員室の静かなこと。
どんな先輩に聞くといい教師
の文化が途絶えてきています。
先輩としての力が次の世代に受
け継がれていかないもどかしさ
を強く感じています。

(2) 教材の工夫

教材の問題としては、体験の
問題を中心にしたものがありま

す。口で言えばわかるという授
業は終わったのかもしれませんが。
見たことも聞いたこともない。
そこで、教材を工夫しなければ
いけない。なるべくリアルにし
てやらないといけない。実際に
ある物を持ち込む。ビデオを使
う。実際にある所へ見に行く。
ちよっと手間はかかるのですが、
これらを実践していくことが大
事です。

(3) 導入とは

授業の工夫として最近導入
が気になって仕方がないのです。
先生が、自分のために導入をし
てしまうのです。導入とは、一
人ひとりの子供が、自分が何を
やるのか、学習課題をしっかりと
と把握していて、「やってみた
い」「できるようにになりたい」
「わかりたい」という気持ちに
させるものです。

今まで見た中で最も印象深
かった導入を紹介します。小学
校4年生の理科で、熱伝導のと
ころでした。理科室で、ペテラ
ンの女性の先生でしたが、子供
たちががががやしている中に

入ってきて、アルコールランプに火をつけました。子供たちが集まってきたところを見計らって、鉄の棒とガラスの棒を火にかざしました。その間無言なのです。みんながこちらを見た頃を見計らって「熱い！」と言つて、ポンと鉄の棒を投げたのです。子供たちはびびくりして「先生、大丈夫？やけどしなかった？」。その声を聞きながら「あれ、こっちの棒は熱くないね」と一言。これで導入は終わりです。実に鮮やかなパフォーマンスでした。導入はこういうことだと端的に示しています。

(4) 開かれた発問

それから、授業の技術上の問題です。子供に考える力をつけるといいますが、どうすれば考える力がつくのか。とくに活用型の学習活動になりますと、子供自身が答えを見つけ出し、作り出すように、子供を動かしていくスキル（指導技術）を持つていないと、授業が成立しないわけです。

この時に問題にしていることは、「開かれた発問」です。発問には、閉じた発問と開かれた発問があります。閉じた発問は、知っているか知らないかを試すような問いかけです。「日本の首都はどこですか」のような発問の仕方を閉じた発問といえます。答えは一つしかない。子供が考える授業にするためには、知っているか知らないかではなく、子供が答えを作り出す、開かれた発問が大切です。

「朝顔を育てるには何が必要ですか」「水が必要ですか」「土が必要ですか」「肥料が必要ですか」「お日様が必要ですか」「そうです。朝顔を育てるためにはこんなたくさんものが必要なんです。これをノートにまとめて今日の授業を終わりにしましょう」これは、閉じた発問だけの授業です。

「朝顔を育てるためには何が必要ですか」「水が必要なんです」「なぜ水が必要なのですか」「わかりません」。ここから授業が始まるのです。「では、わからないときにはどうすればいいのかな。」「調べてみればいい」となります。ではどういうように調べようか。いろいろな活動が生まれてくるわけです。「この朝顔の鉢には毎日コップ5杯、こっちの鉢にはコップ3杯、この鉢には水をやらない」。このことでどんな変化が起きるのか、子供は一生懸命答え探しを始めるのです。このように、誘ったりすることが教師の仕事です。このような働きかけがこれからは必要になってきます。「自分で調べなさい」では放任です。誘ってやらなければいけないのです。そして、子供が「どういうことになるのだろう」と、答えを自分で作り出そうとする。お互いの調べたことを持ち寄っていくことで子供たちの考えが深まっていくのです。

(5) 授業と学級作り

授業の問題は、学級作り、学級経営の問題と結びつけて考えられるようになってきました。子供たちが自分で答えを探しようとする、子供が何でも言えて、自分の考えを発表でき、それを友達がお互いに認め合い、先生がそういう姿を喜ぶという支持的風土が非常に大事だということが、改めて強調されてきています。日ごろの学級がどういう学級なのか、その上に乗って授業は展開しているのです。日ごろの学級作りの難しさも、若い先生方にはもう一度しっかり学んでほしいものです。

退職校長の先生方をお願いしたいのは、若い先生方に、豊富な経験をもってお力添えいただきたいということですが、ご清聴ありがとうございます。

「平成26年8月豪雨」等により被災された会員各位に心からのお見舞いを申し上げます。

一日も早く、平常の生活に戻れることを祈念いたします。

平成26年9月30日

全国連合退職校長会

五反田だより (事務局)

霊峰富士を仰ぎながら自衛隊
東富士演習場付近を訪れた。

背丈ほどのスキの穂先を渡る涼風に、この夏の猛暑、今までに経験したことのない大雨を忘れさせる爽快感を味わい、地球の自転・公転の速さを実感した。

この秋の全連退は、教育関係23団体の一員として、協力・連携に意を用いながら平成27年度教育関係予算が文部科学省の要求どおり成立することを目指して努力する所存である。

財務省との予算折衝には困難が伴うと思うが文部科学省は、TALIS (タリス) のデータ等を駆使して捲土重来の論戦に臨む覚悟であると聞いている。わが全連退は、文教行政に明るい国会議員の方々の理解をいっそう深めていただく要望を重ね、文部科学省を応援してまいります。

◇4月

- 7 広報部会
- 8 ホームページ委員会
- 11 教育振興部会
- 14 設立50周年資料委員会
- 15 生涯福祉部会
- 16 部長会
- 17 出版事業委員会
- 18 平成25年度会計監査
- 22 常任理事会
- 23 設立50周年実行委員会
- 23 設立50周年資料委員会

◇5月

- 2 設立50周年資料委員会
- 7 部員・委員連絡会
- 7 教育課題答申委員会
- 12 部長会
- 15 教育振興部会
- 19 出版事業委員会
- 20 生涯福祉部会
- 22 設立50周年実行委員会

◇6月

- 4 理事会
- 5 総会
- 9 広報部会
- 12 生涯福祉部会
- 13 総務部会
- 16 広報部会
- 17 教育振興部会
- 18 出版事業委員会
- 23 全連退「情報」122号発行
- 24 広報部会
- 24 設立50周年資料委員会

◇7月

- 15 1～2 常任理事会
- 16 出版事業委員会
- 22 設立50周年資料委員会
- 24 部長会
- 24 会計部会
- 25 全連退「情報」124号発行
- 28 生涯福祉部会

◇8月

- 4 5 副会長会 三省庁へ要望書提出
- 7 設立50周年資料委員会
- 20 全連退「情報」125号発行
- 20 文部科学省大臣官房審議官との教育懇談会
- 28 総務部会
- 29 全連退「情報」126号発行

◇9月

- 1 広報部会
- 2 教育課題答申委員会
- 4 部長会
- 8 広報部会
- 10 常任理事会
- 16 広報部会
- 19 設立50周年資料委員会
- 24 教育振興部会
- 25 出版事業委員会
- 29 設立50周年実行委員会
- 30 設立50周年資料委員会

編集後記

○今年の夏も日本の各地で異常気象の影響で大きな被害が発生いたしました。皆様の所はいかがでしたか。

○総会記念講演での児島邦宏先生のお話は、現在の学校教育の課題を取り上げ、その改善のための方策について示唆されたものでした。現場の先生にも聞かせたい話だという声も聞かれました。

○今年も、猛暑の中、文科省など3省庁へ要望書を提出し、それに対するコメントをいただきました。要望内容、コメント等をご確認いただければ幸いです。

全連退会報 (193号)

発行 平成二十六年九月三十日
発行所 東京都品川区東五反田
五二一三三三三〇八
全国連合退職校長会
電話 〇三三四四一八七六八
FAX 〇三三四四二八七六八
http://www.zenrentai.org/
振替口座 〇〇一九〇九四四七二〇
○責任者 戸張 敦雄
印刷 株式会社 信行社
電話 〇三三三三三三六二二